

研究主題 安心できる学級・学校づくり ～生徒指導の三機能を生かし、子どもの主体性を育てる～

議題 「5-2のオリジナルキャラクターを作ろう」 (1)ア 学級や学校における生活上の諸問題の解決

1. 学級活動(1)で育成を目指す資質・能力

- 学級や学校の生活上の諸問題を話し合っ解決することや他者と協働して取り組むことの大切さを理解し、合意形成の手順や活動の方法を身に付けるようにする。
- 学級や学校の生活をよりよくするための課題を見だし、解決するために話し合い、多様な意見を生かして合意形成を図り、協働して実践することができるようにする。
- 生活上の諸問題の解決や、協働し実践する活動を通して身に付けたことを生かし、学級や学校における人間関係をよりよく形成し、他者と協働しながら日常生活の向上を図ろうとする態度を養う。

育成すべき資質・能力の重要な視点

人間関係形成

違いを認め合い、みんなと共に生きていく力を育てる。

社会参画

よりよい集団や社会を作ろうとする力を育てる。

自己実現

なりたい自分に向けてがんばる力を育てる。

2. 第5学年及び第6学年における評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
みんなで楽しく豊かな学級や学校の生活をつくるために他者と協働して取り組むことの意義を理解している。 合意形成の手順や深まりのある話し合いの進め方を理解し、活動の方法を身に付けている。	楽しく豊かな学級や学校の生活をつくるために、問題を発見し、解決方法について多様な意見のよさを生かして合意形成を図り、信頼し支え合って実践している。	楽しく豊かな学級や学校の生活をつくるために、見通しをもったり振り返ったりしながら、自己のよさを発揮し、役割や責任を果たして集団活動に取り組もうとしている。

3. 議題について

(1) 児童の実態

本学級の児童は、何事にも意欲的に活動することができ、学習や行事、係活動、委員会活動などに進んで取り組む姿が見られる。さらに、男女の仲も良く、みんなで意見を出し合いながら協力して活動する場面が多く見られる。しかし、児童同士が関わる中で、相手の気持ちを考えずに、つい自分中心の言動をしてしまう児童もおり、友達との関わり方に課題がある児童もいる。授業においては、自分の考えを持ち、ペアやグループ活動で表現することはできるが、全体の場で発表することが苦手な児童もいるため、学級全体での話し合いが一部の児童の意見で進んでしまうこともある。そこで、4月から「友だちを大切にすることができ、みんなが安心して過ごすことができる学級」にするために、相手の話をしっかりと聞いて受け入れるということも大切にしてきた。それを積み重ねることにより、少しずつではあるが、友だちの意見を聞いたり、友だちの考えと自分の考えを比べて考えたりすることに関心を持ち、相手の意見を聞き受け入れることができつつある。

学級活動については、計画委員を輪番制にすることで、どの子も役割を持ち、児童から出てきた議題をもとに月に1回程度、学級会を行ってきた。今年度は、4月当初に1年間の見通しを立てる中で、みんなでやりたいことを一人一人が考え、「5-2やりたいことリスト」を作成した。一学期は、まず、そのリストをもとに「クラスの仲を深めるためにレクをしよう」という議題で学級会を行った。その後も、クラスに新しく加わった転校生のために歓迎会を計画するなど、クラスのみなが楽しく過ごすためにできることを考え、実行してきた。初めは、それぞれがやりたいことを実現させたいという思いもあり、「まとめる」までいかないこともあったが、回を重ねるごとに、友だちの意見を受け止めながらみんなで協働して取り組むことの良さを実感してきている。また、計画委員が事前の準備を行い、「出し合う」「比べ合う」「まとめる」の話し合いの流れを意識して進めることには慣れてきて、少しずつ自分たちの力で進めようとする姿や心配なことや不安なことも安心して発表する姿が見られるようになってきた。

(2) 議題選定の理由

本議題は、5-2の32人の仲間と過ごすのは残り半年となった今、クラスの絆をより深め、自分たちらしさのあるオリジナルキャラクターを作って、様々な場で使うことによってクラスが1つにまとまってほしいという児童の思いから選定された。学級会では、あらかじめ学級で募集したキャラクター案を元に学級のキャラクターを考えていくが、その中からキャラクターを決定するという考え方だけではなく、アイデアを組み合わせたり、新しい考え方を話し合ったりしながら「みんなでキャラクターを作り上げる」という意識を高めていく。本時では、自分の意見を意欲的に伝え合うこと、合意形成する際には、相手の意見に寄り添い、お互いを認め合うことを大切にしながら話し合いを進めていきたい。

また、ただキャラクターを作るだけではなく、どのように活用していくのかも考え、残り半年間、クラスの絆をさらに深めていくためのシンボルとなるようなキャラクターを作ることができるようにしたい。

4. 指導と評価の計画



日時	計画委員の活動計・学級全員の活動学 指導上の留意点(・)
10月17日(月) ① 昼休み ② ③ 帰りの会	①議題の決定・役割分担計 ・やりたいことリストや議題カードをもとに話し合う議題を決める。 ・学級会の進行の仕方を確認する。 ②議題の周知計 ・提案理由を明らかにして、学級全員に伝え、学級会コーナーに掲示する。 ③キャラクター案募集・掲示学 ・キャラクター案を募集後、学級会コーナーに掲示する。
10月22日(金) ④ 昼休み	④案の整理計 ・学級会ノートに目を通し、書かれた意見を整理する。
10月24日(月) ⑤ 昼休み	⑤学級会のシュミレーション計 ・進行、板書をイメージしながら確認し、話し合いの見通しをもてるようにする。

本時のねらい クラスの絆をより深めるためのキャラクターを決め、その活用の仕方を考えることができる。		
話し合いの順序	・気をつけること(児童) ○留意点(教師)	◎目指す児童の姿(観点)【評価方法】
1 はじめの言葉 2 計画委員の紹介 3 議題の確認	・めあてをもって自分の役割に臨めるようにする。	
5-2のオリジナルキャラクターを作ろう		
4 提案理由の確認 5 めあての確認	・提案者の思いや願いを全員が理解し、学級全員の問題であることを確認する。 『クラスの絆をより深めるためのキャラクターを考えよう』	
6 話し合いの進め方の確認	・話し合いの進め方を司会者が確認する。	
7 先生の話	○前時までの取り組みの良かったところと期待を伝え、本時の意欲を高める。	
8 話し合い 話し合うこと① 「どんなキャラクターにするか。」 話し合うこと② 「どんな時に使いたいか。」	・キャラクター案に込められた思いを伝え合うことができるようにするために掲示しておく。 ・話がずれたり意見が止まったりした時には、前の人の意見をつないで話し合いができるよう司会が促す。 ○必要に応じて、提案理由に沿ったものかどうか、考えられるよう助言する。	◎クラスの絆をより深めるキャラクターはどのようなものが良いか、どのように活用するとよいか、根拠を明確にしながら発言したり、友だちの意見と比べて聞いたりしている。 (思考・判断・表現) 【観察・発言】
9 決まったことの発表 10 振り返り	○自分自身や友だちの成長したところや次に繋がる課題等について書いてある振り返りを紹介する。	
11 先生の話	○提案理由を意識した発言や建設的な発言をしていた児童を称賛する。 ○実践への意欲が高まるように言葉掛けを行う。	
12 おわりの言葉		

日時	計画委員の活動計・学級全員の活動学 指導上の留意点(・)
10月27日(木) ① 昼休み~	①キャラクターを完成させる。計 ・協力して準備が進められるように助言する。
10月31日(月) ② 帰りの会	③クラスキャラクター誕生会を開く。学 ・めあてに基づいた振り返りを行う。
10月31日(月)~	キャラクターの活用学 ・キャラクターを活用する。

◎目指す児童の姿(観点)【評価方法】
◎キャラクター作りを振り返り、自他の頑張りに気付いたり、次の活動に生かそうとしたりしている。 (主体的態度) 【行動観察】

◎目指す児童の姿(観点)【評価方法】
◎提案理由に沿ったキャラクターを作るための見通しをもち、意欲的に取り組もうとしている。 (主体的態度) 【提案カード・観察】
◎「5-2のオリジナルキャラクターを作ろう」の目的に合った意見を考え、判断し、学級会ノートに書いている。 (思考・判断・表現) 【学級会ノート・観察】

5. 板書計画

